

イブキ盆栽におけるネグサレセンチュウの防除法

農業技術研究センター（病害虫研究担当）

キーワード：イブキ盆栽、ネグサレセンチュウ、薬剤浸漬処理、防除

1 技術の特徴

イブキ盆栽は、EU諸国向け輸出の条件として、「少なくとも2年間、植物防疫所に登録されたほ場で栽培管理すること」や「ビヤクシンハダニ、タマイブキノタマバエ、マメコガネ、さび病及びその他 EU未発生の病害虫がないこと」などがある。その他病害虫である植物寄生性線虫については、検出されないことを条件として土付きの輸出が可能となっている。

しかし、ほ場で育成された苗は、少なからず線虫が寄生している場合が多いことから、線虫の根絶技術が求められている。

そこで、2年間にわたり、2種の登録薬剤を単独あるいは混用して鉢ごと浸漬処理することにより、ネグサレセンチュウをほぼ根絶できることを確認した。

2 技術内容

(1) 2種薬剤の時期別の浸漬処理効果

アバメクチン乳剤の500倍60分およびホスチアゼート液剤1,000倍10分の1回の鉢ごとの浸漬処理では、12月より5月処理の方が効果が高いものの、線虫の根絶はできない（図1）。

(2) 2種薬剤の連用および混用処理効果

2種薬剤の連用あるいは混用の1回（単年度）の浸漬処理は、単独処理より効果が高いものの、線虫密度が高い場合は根絶できない（図2上段）。しかし、この処理を2か年繰り返すことにより、根絶が可能である（図2下段）。土壌50gあたり1,000頭を超えるような高密度（通常現地では100頭程度）の汚染鉢であってもほぼ根絶が可能である（図3）。

3 具体的データ

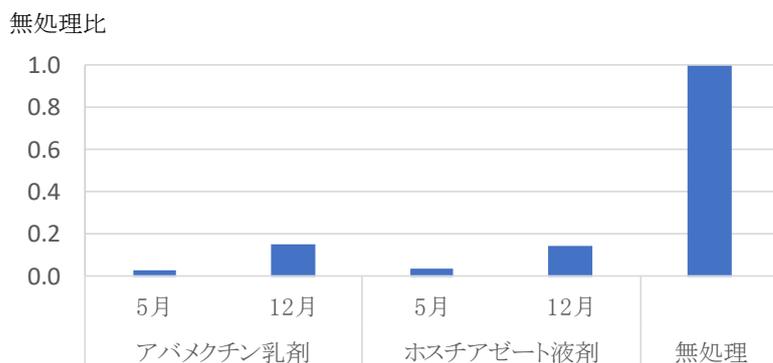


図1 2薬剤の浸漬処理による時期別の線虫の防除効果

アバメクチン乳剤：500倍60分浸漬 ホスチアゼート液剤：1,000倍10分浸漬処理

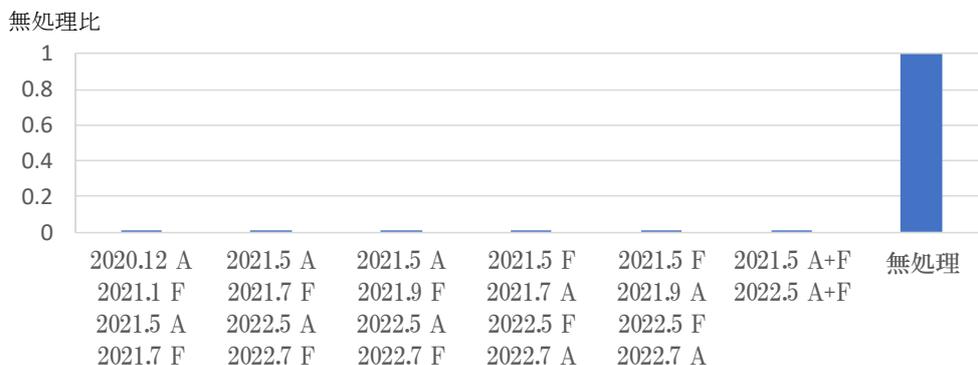
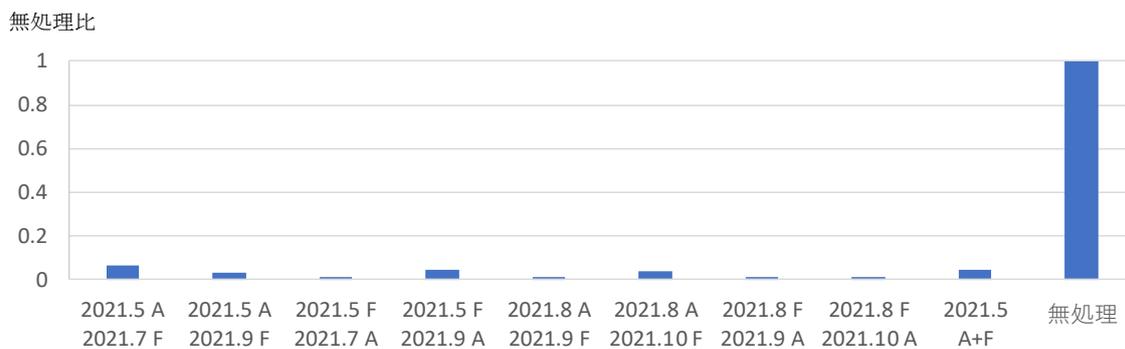


図2 2薬剤の浸漬処理による線虫の防除効果（上段：単年度処理 下段：2か年にわたる処理）

A：アバメクチン乳剤500倍60分浸漬 F：ホスチアゼート液剤1,000倍10分浸漬

A+F：混用10分浸漬処理

薬剤前数値は処理年月を示す

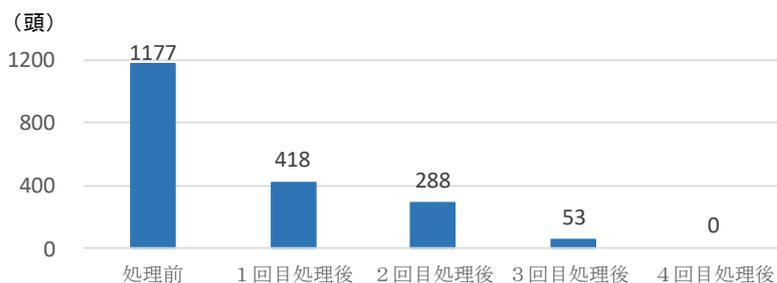


図3 2か年にわたる薬剤処理における線虫個体数の推移

アバメクチン乳剤：2020.12および2021.5、ホスチアゼート液剤：2021.1および2021.7処理

濃度と処理時間は図1と同様

4 適用地域

県内全域

5 普及指導上の留意点

- (1) イブキ盆栽には供試した両薬剤による薬害は見られなかったが、他の樹種では薬害の報告があるため注意が必要である。

6 試験課題名（試験期間）、担当

植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術の高度化（2020～2022）、病虫害研究担当